令和３（２０２１）年度
第３回かしわざきこども大学運営協議会　議事録

＊　日　　時　　令和４（２０２２）年３月１日（火）　午後６時３０分～午後７時５０分
＊　会　　場　　柏崎市役所　４階　４－３・４－４会議室
＊　出席委員　　７名　長谷川委員、前澤委員、片桐委員、山﨑委員
　　遠山委員、松谷委員、土田委員
＊　欠席委員　　２名　川本委員、猪爪委員
＊　事 務 局　　７名　　飯田教育部長
　　【学校教育課】池田課長、小山課長代理、平野副主幹、横田主査
　　【保育課】栗林課長代理
　　【商業観光課】佐藤主事

１　開会　　司会：小山課長代理

２　挨拶　　長谷川会長
　３月に入って華やかな卒業シーズンではあるが、新型コロナウイルスが収束していない中で、今後も注視が必要な状況である。今日の新聞で、柏崎市内の学区の再編について掲載されていた。今後、物議を醸すような気がしている。第３回の会議では、今年度の事業報告と来年度に向けての事業計画の審議をしていただく。皆さまの御意見を頂きながら進めたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

３　かしわざきこども大学運営協議会　委員の交代について
　柏崎市社会福祉協議会　松木万里央委員　　令和３(2021)年１０月３１日　解嘱
　　猪爪拓也委員　　令和３(2021)年１１月１日　委嘱

４　議事
⑴ 令和３（２０２１）年度　事業実施状況について
　① 自然体験コース（横田主査）
　　今年度は、計３０園で実施。夢の森公園とこども自然王国に計２２３，６００円の負担金を支出。実施園から提出のあった報告書を取りまとめ、次年度作成する実施報告書に掲載する。
　② キャリア教育コース（佐藤主事）
　　第２回の会議での報告後、東中学校２年生と第二中学校の１・２年生で実施した。１月１８日に東中学校１年生で予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。
　　アンケート結果では、参加した生徒に限らず、保護者サポーター、先生方からも全体的に高評価をいただいている。
　③ ロボット工作コース（平野副主幹）
　　各学校でのクラブ活動と工作教室並びに交流競技会という２つの形態で実施。各学校でのクラブ活動は５校で実施。４０名以上の児童の参加があり、全ての活動を終了した。コロナ禍で学生が訪問できない日も数日あったが、概ね好評であった。アンケート結果については、

次年度に報告する。

３月５日、６日に計画していた工作教室及び交流競技会について、新潟県のまん延防止措置期間であることや市内小中学校での感染が収まっていないことから、残念ながら、中止とした。工作教室は１６名の参加希望、学校のクラブ活動児童のうち交流競技会に参加希望が２名、計１８名の参加希望者があった。中止の連絡に対し、申込者からは、「非常に残念です。」といったコメントを添えた返信をいただいている。

④ ドリームコース（横田主査）

１０月１０日に柏崎市青少年健全育成市民会議により、トライウォークの実施があった。こども７３名、大人９２名の参加があった。こども大学からは１９０，０００円の負担金を支出した。

⑤ 科学・実験コース（横田主査）

１月２６日に文書を送付し、委員の皆さんから書面決議をいただいた。事業について承認いただき、3月１３日(日)「柏崎っ子おもしろ実験講座」の開催に向けて、準備を進めている。

チラシを市内小学校の１年生～３年生を対象に配付し、申込を開始した。定員の３０名を超える応募があり、反響が大きい。新潟工科大学は、参加希望者に対応できるようスペースを広げるなど、対応を協議中である。

⑥ こどもの笑顔創造プロジェクト（横田主査）

今年度は、計１０団体が事業を実施。新型コロナウイルスの影響で活動内容の変更を余儀なくされる団体も多くあった。現在、各団体から実績報告等が提出されている。

⑦ 学校教育活動推進事業（平野副主幹）

コロナ禍当初予定していた事業が実施出来ず、やり方を工夫したり、事業内容を変更し、実施した。各学校で教育活動のため有効に使われている。

―質疑・応答―

【山﨑委員】　キャリア教育コースのいきいきゲームで、保護者サポーターの確保が課題だったと思うが、謝礼の支払いなど対応し、どのような反響があったか。

【佐藤主事】　第二中学校の１年生で保護者サポーターが集まらず、急遽先生方に協力いただいて実施した。学年を問わず、協力いただける保護者を募った方が良いのではないかという意見もあり、今後また検討の必要あると感じている。

【遠山委員】　第二中学校の１年生保護者サポーターとして参加した。参加し、とても有意義な事業であり、楽しく過ごすことが出来た。保護者サポーターの募集があったのが、事業の２週間前だった。自身は、元々参加したいと考えて予定していたが、２週間前の周知で、１日のボランティアに都合をつけるのが難しい保護者が大半だと思う。最低でも２か月前くらいに、周知しないと仕事の都合をつけるのは難しい。

事業内容は、タネ明かしになってしまうので、事前に保護者に案内することは難しい点は承知しているが、謝金や給食の用意があることについては、あらかじめ保護者に周知すべきと感じた。かしわざきこども大学の事務局からも保護者サポーターの募集時期等について、学校に助言をお願いしたい。

【前澤副会長】　科学実験コースの応募企画書の中で、スタッフ２０名とあるのは、新潟工科大学の学生等のことか。

【横田主査】そのとおりである。スタッフ２０名は、新潟工科大学の学生やお手伝いいただく先生方の

ことである。

【長谷川会長】　募集人数３０名を超える応募があるという説明だったが、今は何名の参加なのか。

【横田主査】　本日午前中に募集は締め切ったということだが、３０名の定員のところ５０名の応募があったと聞いている。スペースを広くとるなどして、感染症対策を講じるよう伝え、新潟工科大学でも対応を協議している。５０名を対象に実施する方向で進めている。

【山﨑委員】　負担金の額は変わらないのか。

【横田主査】　当初３０名を想定して予算を考えていたが、５０名に増やしたときに、どれくらい予算に影響があるのかは新潟工科大学で検討していただいた上で、確認したい。現時点では、増額分については、新潟工科大学が負担することを考えていると連絡いただいている。

⑵ 令和４（２０２２）年度　実施予定事業について　（横田主査）

・コース全体について

今年度と同様で７つの事業を実施予定。

・こどもの笑顔創造プロジェクト応募団体について

広報かしわざき、各コミセンや保育園幼稚園、小中学校へのメールで募集を周知した。

１０団体中８団体は今年度から継続しての応募。新規団体は、比角地区コミュニティ振興協議会とNPO法人じょんのび工房。現時点の補助金予定額は総額２，５２５，０００円。

・ドリームコース応募者について

２月２５日（金）を期限としたが、応募はなかった。今後、改めて公募を検討するが、委員の皆様の近くで子どもたちのための事業を考えている団体等があったら紹介いただきたい。

－質疑・応答－

【長谷川会長】　こどもの笑顔創造プロジェクトで、第一中学校区と第五中学校区の応募団体で、学校関係とコミセンや社会教育関係団体の２団体の提出があるが、学校と学校外の団体の関係性はどうか。

【横田主査】　第一中学校が事務局を担っている「未来の柏崎を担う子どもたちを育てる会」は、中学校をメインとし、学校と地域を結びつけるような活動を行っている。中央地区コミュニティ振興協議会はメインの対象を小学生とし、放課後や土曜日の活動を行っている。活動区域は第一中学校区で同一だが、対象者について、すみ分けが出来ている。

第五中学校区のNPO法人じょんのび工房は、高柳地区の子どもたちをメインの対象として捉えている。鯖石っ子応援隊は、鯖石小学校が事務局となり、鯖石小学校の子どもたちをメインの対象としている。同じ地域なので関連性はあると思われるが、２団体の応募として受け付けた。

【長谷川会長】　「たんねのあかり」は２年に１回の開催か。

【横田主査】　「たんねのあかり」の開催頻度については情報がない。「鯨波小学校区教育活動運営協議会」の事業計画の中で「たんねのあかり」のPR活動及び参加となっているので、実施がされた場合には、団体として参加する予定である。

－採決－

【長谷川会長】　令和４（２０２２）年度こどもの笑顔創造プロジェクト応募１０団体を補助対象としてよろしいか。

【委員】承認（全会一致）

⑶　かしわざきこども大学の今後の事業について（横田主査）

前回の会議でも、かしわざきこども大学の今後の方向性について御意見をいただいた。事務局として今後の基金残高の推移のイメージを作成した（資料９）。

令和５（２０２２）年度以降も現在と同じ予算規模１，０００万円とした場合、令和７（２０２５）年度までは、事業継続が可能だが、令和８（２０２６）年度は４５７万円規模の事業とし、事業終了とする。令和５年度以降、７５０万円程度に予算を削減した時のイメージでは、令和７（２０２５）年度末の残高が１，２４０万円となり、令和８（２０２６）年度も７５０万円程度の事業を継続し、令和９（２０２７）年度に残りの５４０万円規模の事業を行い、事業終了とする。令和５年度以降、予算を７５０万円程度に削減すると、基金の残高が１～２年延長されることを示している。

７５０万円の予算の根拠が、当日配付した資料「予算削減イメージ図」である。あくまで、たたき台であり、どのコースをいくら削減するのかといったことは、現時点では何も決まっていないとい前提でご覧いただきたい。

資料を基に、委員の皆様に、今の７つのコースの内容、予算規模で事業を継続するのか、何かしら予算を削減して、少しでも基金を長く持たせるのか大きな分岐点について御意見を頂戴したい。本日配付したアンケート用紙に、率直な御意見を記載いただき後日提出願いたい。

【前澤副会長】　方向性として、２つの案を提示いただいたが、２択なのか。もっと１年間に使う金額を少なくして、長く事業を継続するという方向性も考えられるのか。

【横田主査】　７５０万円はあくまで、試算する上でのモデルなので、事業に使う経費を３００万円、１００万円とすれば、その分基金の残高は増えていくものと考えている。

【長谷川会長】　「予算の縮小イメージ案」について、「自然体験コース」「キャリア教育コース」「学校教育活動推進事業」は減額しないで、現行の予算でいくという意図は何か。その他の事業を減額・廃止とした意図は何か。

【横田主査】　自然体験コースは、３０園から参加いただいていて参加者も多いことから、現行のままとした。キャリア教育コースは、１５クラスを対象としている。仮に１０クラスにした場合、実施出来る学校数が減ってしまうことから現行通り１５クラスとした。

ロボット工作コースについては、１３６万円の委託料でクラブ活動への派遣とロボット工作教室の開催を行っている。他の事業の予算縮小と均衡を図るため、１００万円とした。

科学・実験コースとドリームコースについては、それぞれ３０万円の予算がついているが、毎年度事業団体を募集して実施しているものであり、応募がなく実施のない年もあったため、廃止とした。

こどもの笑顔創造プロジェクトは、各団体３０万円を上限としている。多くの団体が２０万円前後で１年間の事業を行っている。この予算イメージでは、１５万円とした。

学校教育活動推進事業については、事業峻別により子ども育成基金から２３９万円を充当することとなったため、現行のままとした。

【片桐委員】

２年延長するかどうかというのはあるが、本質的に基金がなくなることには変わりがないと思う。基金がなくなった場合にはどなるのか。なるべく教育活動への予算を残して、残高を残しておきたいというねらいなのか。

【飯田部長】　基金がなくなると廃止の手続きをとり、この事業を市の財源を使ってやっていくかど

うかの判断になる。引き続き実施したいとなったときには、市長と協議をしていく。この事業は必要だと判断されたときには予算として認められる場合もある。かしわざきこども大学自体が基金を前提とした事業なので、廃止するという結論になる場合もある。

【片桐委員】　額を減らしても基金が継続すれば、事業は継続できるということか。なくなったときには、次を出来るかどうか分からないということか。

【飯田部長】　そういうことである。寄附金は、毎年頂いているので、積み立てていって、その中で細々と実施するということも可能と考える。

【山﨑委員】　市から基金への繰入金はどうか。

【飯田部長】　当初は、市の会計から毎年２，０００万円ずつ積み立てる形で１億円を目標にやってきたところだと思う。積み立てるという判断もあるかもしれないが、財政的には厳しいのが現状である。

【山﨑委員】　元々１億２，０００万円の積み立てから事業が開始したので、少しずつ年間５００万円ずつでも市から繰入金をお願いできれば細々と継続できるのではないかと思う。

予算縮小について、今は仕方ないのかなと思うが、それに合わせて市からの繰り入れ金バックアップをお願いしたい。

【長谷川会長】　今回、事務局からたたき台としてイメージ図を提供された。７つのコースについて、取捨選択しながら、予算を減額することが良いのか。最終的には、委員の皆さんのアンケートを基に教育委員会に判断いただくことになるかと思う。山﨑委員が言われるように、市の会計からの繰入金をお願いしたいという意見もある。

【山﨑委員】　こどもの笑顔創造プロジェクトについて、学校が事務局のところもある。これから学区の統廃合もあるが、出来ればコミセン主体となっていくと良いと考えている。基金が枯渇してもコミセンとして事業を継承してやっていくことはどうか。学校が事務局となると、教育予算を使うことになり難しい面もあるだろう。

【松谷委員】　学校教育活動推進事業は、学校にとってはないと困る予算なのではないかと思う。こども大学で予算を計上しなくても、市の教育予算で計上するべきお金なのではないかと思う。その他の部分について基金を使って、こども大学事業としてやっていければ良いと考える。

【遠山委員】　こども大学の事業は、練りに練って出てきたものなので、どれも大切なものであると考える。個人的には、学校の授業でも家庭でも出来ないものを子どもに体験させられるというのが、基金の有効な使い道と感じている。学校の授業の予算に使えば、全てのお子さんにいきわたるので平等だが、基金がなくなっても家庭で連れていけるようなものだったら廃止しても良いとも思う。学校教育活動推進事業は、学校の予算がギリギリで、これがないとどうにもならないものなのか伺いたい。

【池田課長】　学校教育活動推進事業は、かつて他の事業に分かれていたが、こども大学に吸収されて支出している。総合的な学習の時間に、子どもたちに有意義な体験活動等を各学校で工夫して実践する際にどうしてもお金が必要になる。そのために市から補助してもらえれば、各学校は豊かな教育活動を実践できる。すべての学校に配当される予算になるので、これは残していただきたい。

【飯田部長】　学校教育活動推進事業は、市長の事業峻別によって「子ども夢・感動・絆プロジェクト推進事業」と「幼保小連携・小中一貫教育推進事業」が統合して始まった。学校にと

って必要なものは、一般会計から支出することは可能と考えられるため、基金がなくなった時には一般会計に移行することも考えられる。

【前澤副会長】　自然体験コースの負担金４００円は、保護者の方々の負担出来る範囲ではないかと考える。こどもの笑顔創造プロジェクトは、学校でも家庭でも出来ない体験を企画していただける良い事業だと思っている。今後、２０３０年を目途に中学校区が再編になった時に、地域の関り方はどうなっていくのかと思う。その時、この、こどもの笑顔創造プロジェクトが地域の助けになるのではないかと思う。２０３０年に子ども育成基金があれば良いなと思っている。

【長谷川会長】　２０３０年に１１中学校区が６中学校区になるという話があり、地域という考えがなくなっていくと感じる。学校がなくなると地域の核になるのは、コミセンかなと感じる。学校教育活動推進事業もコミセンを主体とした中で子どもたちが地域で活動する場、その予算確保が必要。学校区だと校区が広すぎて、子どもたちにとっての地域という考えが薄くなっていくと思う。

【遠山委員】　こどもの笑顔創造プロジェクトの新規団体の比角コミセンの事業に関わっている。子どもたちの居場所を学校ではなく、コミセンに作ろうという取り組み。新しい事業であり、コミセンの予算がつかないため、本補助金の提案に繋がった。コミセンの部の中に、子どもたちの育ちに関わる部を創ろうとしている。その足掛かりとなるもので、この事業を計画した。今後は、コミセンで学校とは違う居場所を作っていくことに向けて動いていかなくてはいかないと考えている。こどもの笑顔創造プロジェクトの補助金を使っていただいているコミセンの団体にも、このお金があるからするのではなくて、コミセン主体として補助金があってもなくても事業を継続する方向に持って行っていただきたい。比角スマイルプロジェクトは、令和４年度は補助金をいただいて事業を行うが、令和５年度はコミセンで予算化していく予定である。他のコミセンも考え方を変えていただければ、基金が尽きても事業は残っていくように感じる。

【長谷川会長】　大事なことは、基金を有効活用して子どもたちの体験活動を充実させることなのかなと感じる。アンケートにご記入いただき、学校教育課に提出いただけばと思う。

５　連絡事項

（１）かしわざき子ども育成基金　収支報告　　（横田主査）

2 月 18 日現在の寄附金合計は、827,056 円。北日本エンジニアリング株式会社は、これまで通算 18 年間に渡って継続してご寄附いただいており、2 月 15 日教育委員会表彰の表彰式で社会教育・地域振興関係の感謝状を授与された。

（２）今後のスケジュールについて　　（横田主査）

本日の報酬と交通費は４／２１(木)振込予定。

６　閉会　　教育委員会　飯田教育部長

本運営協議会に１年間ご協力いただき、感謝申し上げる。第一回の会議の際に、かしわざきこども大学の初年度に参加された皆さんが成人になり、その成人の皆さんからアンケートでこども大学にどんな思い出があるか聞いてみたいと話をした。本来であれば、３月５日（土）が成人式で予定していたが、コロナ禍であり、来年度９月まで延期となった。アンケートも叶わない。来

年度、委員の皆さんにも、若い皆さんにこども大学がどういった糧になっているかと聞くチャンスを作っていただきたい。

市では、第五次総合計画の前期計画が３月をもって終期を迎え、４月から後期計画がスタートする。重点戦略の一つに、「子どもをとりまく環境の充実」を掲げ、新年度予算でもそのための予算が盛り込まれている。来年度、子どもを取り巻く環境は、成人年齢が２０歳から１８歳への変更、中学校の休日の部活動における地域移行の試行開始、学区編製について学区等審議委員会に諮問など大きな波が出てきそうな１年になりそうである。皆さんからまた御意見等頂戴したい。

昨年５月の第１回の会議で山﨑委員から北日本エンジニアリング株式会社に感謝状を贈呈できないかとお話があり、今回の感謝状授与に繋がった。山﨑委員に感謝申し上げる。

子ども育成基金が今後先細りする中で、今後どのようにこども大学を続けていくか終わりにするか皆さんの意見を基にしながら、検討したい。

今後ともよろしくお願いしたい。

以上。